

Title	地域を引っ張るMOT人材を育てる ―いしかわMOTスクールといしかわMOTシンジケート―
Author(s)	
Citation	JAIST社会イノベーション・シリーズ, 7
Issue Date	2008-03
Type	Others
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/4859
Rights	
Description	

いしかわ MOT スクールとは

JAIST では、能美市キャンパスならびに東京・田町キャンパスで MOT コースを実施してきましたが、平成 16 年 10 月より、地域の産業界を担う人材育成を目的に、社会人を対象にした「いしかわ MOT スクール」を(株)石川県 IT 総合人材育成センターで開講しています。MOT スクールは、知識科学研究科、マテリアルサイエンス研究科と連携した講座編成となっており、研究開発マネジメント、産学連携マネジメントなど技術戦略や知識経営論、MOT 改革実践論など演習も取り入れた講義を実施するほか、バイオサイエンスやナノテクノロジーなど JAIST の最先端の研究成果を学ぶ講義も行います。また本コースは、JAIST の「統合科学技術コース」の入門コースとして位置付けられています。講義は、JAIST 金沢サテライトキャンパス(金沢市鞍月2丁目1番地・(株)石川県 IT 総合人材育成センター内)にて、主に土曜日終日、水曜日夜間に行います。詳細は(株)石川県 IT 総合人材育成センターのホームページをご覧ください。

■特徴

- ・知識経営を基盤に理論の学習と実践を行う
- ・先端科学技術の基礎知識を習得する
- ・MOT 先端事例について学習する
- ・受講生企業 MOT 改革課題解決の戦略策定を行う
- ・短期間(6ヶ月)で集中的に行う
- ・講座終了後、課題レポート、提案資料等の提出が義務付けられる
- ・派遣企業の役員又は部門長をメンターとして登録し、スクールとメンターが緊密に連携して人材育成を行う
- ・課題研究ゼミを実施する

■受講対象

- ・新製品開発型企業、製造業等の研究開発、技術部門等のマネジャー及びマネジャー候補
- ・業務経験 3 年以上
- ・30 歳以上

■カリキュラム

【知識科学研究コース】

戦略的技術マネジメント論 / MOT 改革実践論 / 知識経営論
研究開発マネジメント論 / システム科学方法論

【マテリアルサイエンス研究コース】

ナノ構造制御と機能材料 / 先端ナノマテリアルからデバイスへ
バイオサイエンスからライフケアへ

【共通科目(選択科目)】

学際コミュニケーション論 / ロジカルシンキング
地域再生システム論 / 技術経営入門

(株)石川県 IT 総合人材育成センターのホームページ
<http://www.ishikawa-sc.co.jp/index2.html>

今後の展望

いしかわ MOT シンジケートは平成 20 年度で 4 年目に突入します。この間、県内にも MOT 仲間が増え、MOT を通じた地域内連携、さらに地域間連携の進化がさらに期待されます。

今年 6 月には JMAC : 日本能率協会コンサルティングの RD 大会(開発・技術マネジメント革新大会)でいしかわ MOT シンジケートの発表を行うことが決まっており、全国区モデルを目指した取り組みが始まっています。



2007 年 1 月の第 6 回シンジケートセミナーでは、「IMS やるぞ改革実践活動」と題し、RD 大会に向けて学びを深めた。

JAIST 社会イノベーション・シリーズ No.7

発行 2008 年 3 月

発行所 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・科学技術開発戦略センター
〒923-1292 石川県能美市旭台 1-1 知識科学研究科棟 II 7 階

■本誌に関するご意見、お問い合わせ

TEL : 0761-51-1839 FAX : 0761-51-1767 E-mail : coe-secr@jaist.ac.jp

本誌は、文部科学省 21 世紀 COE プログラム「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」の助成を得て発行しております。

JAIST SOCIAL INNOVATION SERIES

社会イノベーション・シリーズ 7

地域を引っ張る MOT人材を育てる — いしかわ MOT スクールと いしかわ MOT シンジケート —



今、石川の企業に「やるぞ君」がどんどん増えています。その中心には、「いしかわ MOT スクール」「いしかわ MOT シンジケート」があります。
技術経営(MOT)は企業経営の根幹です。企業や行政において、MOT 人材を育成し MOT 改革を推進していくことが、地域を活性化させるひとつの鍵といわれています。JAIST は(株)石川県 IT 総合人材育成センターとの緊密な連携のもと、「いしかわ MOT スクール」を開講しています。さらに「いしかわ MOT スクール」の修生生らで組織する「いしかわ MOT シンジケート」のメンバーは、企業や行政の中でさまざまな革新を起こし、その波は地域全体に及んでいます。

ISHIKAWA MOT SYNDICATE

Interview

砂崎 友宏 さん

「いしかわ MOT シンジケートとは」



(株)朝日電機製作所 電子設計部主幹技師いしかわ MOT シンジケート幹事。
いしかわ MOT スクールを修了後、JAIST の統合科学技術コースを修了。
現在は知識科学研究科博士後期課程で学ぶ。

「やらされ君」を「やるぞ君」に変える！ ー いしかわ MOT シンジケート ー

いしかわ MOT スクールのメンバーは私を含めほとんど企業派遣のかたちで参加していて、個人を高めたいというよりは企業を良くしたいという人の集まりです。スクールでは、ありがたい姿、なりたい姿、戦略ロードマップ、ソフトモデルといった MOT を学びます。私自身の経験からいえば、これらの学びや、他の参加者との話し合いを通して、日々の仕事で何かストレスを感じていたことが、すっきり整理されるというか、もやもや感が解消されていく実感がありました。また、企業を元気にするだけでなく、最終的には世のため人のため、地域のために尽くそうという知識科学研究科の近藤教授の考えに非常に共感しました。MOT スクールを修了してからも、メンバーの職場を見学しあい、悩みを共有し、気づきの機会を増やしていく活動を継続していこうという意見が自然と出てきました。そこで修了生ら 12 社 15 名が中心になり、「いしかわ MOT シンジケート」を設立し、メンバー同士でお互いに企業訪問する「MOT 改革体験交流会」を企画しました。工場を見学するだけでなく、それぞれの改革実践の経験や知識や知恵を持ち寄り、持ち

帰って、自分の会社に提供しようという活動です。平成 17 年 4 月に第 1 回を行った MOT 改革体験交流会はその後回数を重ね、平成 19 年度中に第 15 回まで至っています。そのほか、学びの機会として各種セミナーにも自主的に参加しています。



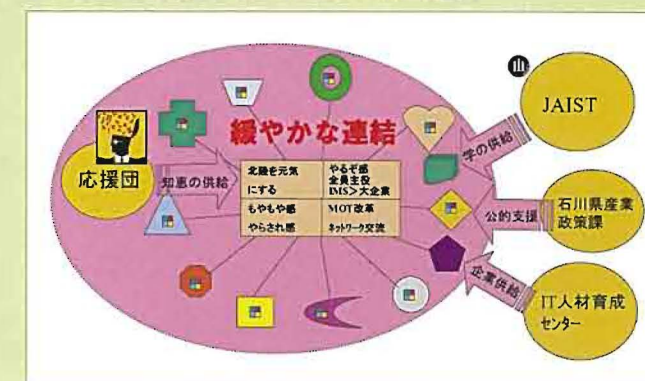
有川製作所での体験交流会の様子。四画面思考方法を用いてグループディスカッションで実施し、「品質向上体質を浸透させるには？」をテーマに意見交流を行った。

シンジケートでは、MOT 改革の輪を広げていくことにも注力しています。JAIST の東京・田町サテライトキャンパスでも MOT コースが開講されていますが、その修了生の間でも「東京 MOT シンジケート」と称した活動が始まっています。私たちはこれまでに、JAIST や東京 MOT シンジケートや、のと・七尾人間塾、(株)石川県 IT 人材総合育成センターと合同で MOT 交流会を開催しました。

MOT シンジケートは単なる異業種交流の団体ではありません。MOT を学んで北陸を元気にするというビジョンの中で、やるときは全員主役でやっていくという姿勢で活動しています。JAIST からは学の提供を、石川県からは公的支援を、IT 総合人材育成センターからは企業の誘致を、また共感していただいた企業、団

体などの応援団からはさまざまな知恵を受けて、成り立っています。自分たちだけが良くなればよいということではなく、目指すところは地域社会への貢献です。

■いしかわ MOT シンジケートの構成



連携を繰り返すことで 大企業に負けないシンジケートを創る

北陸の企業の現状の問題点をあげると、まず、日々の仕事に追われていて「やらされ君」が多いのです。シンジケートはこれを「やるぞ君」(改革人材)に変えたいと思っています。私が MOT スクールで学んでいた頃は、それこそ社内に私ひとりだけの状態で、MOT 改革にしるできる範囲のことをするにとどまっていたましたが、私以降、朝日電機製作所からは毎年社員が MOT スクールに参加していますので、今では話が分かる仲間が増えました。「やるぞ君」が一人から二人、二人から三人になれば、オセロ式に「やらされ君」をひっくり返していくので、もっと改革が進み、社内に「やるぞ君」でいっぱいになるでしょう。

近藤教授はシンジケートにファシリテータとして参加されており、全国の MOT 改革の実例を石川に持ち帰ってくれます。私たちの仕事はそれをこの地域に落としこむことです。いしかわ MOT シンジケートは、近藤教授の提唱する「四画面思考」を共有しながらそれぞれの企業が緩やかに連結していることが特徴です。そのため活動を長く継続していくことができるのです。続けていくことが非常に大事だと私は思っています。そして各自が応援し合える「場」が生まれてい

ることが、とても大きな強みになっています。石川にはオンリーワンの技術を持った中小企業がたくさんありますが、そうした企業が必要なときに連携することで、新たな強みが生まれます。これを繰り返すことで、大企業に負けないシンジケートを創りあげていけると考えています。メンバー同士で企業連携の実践例もどんどん出てきています。

いしかわ MOT シンジケートのブログはこちら
<http://blog.goo.ne.jp/ims2007>

■広がる MOT ネットワーク

